

2023年度

京伝黄表紙における<心>の表象

『伊曾保物語』と『莊子』の比較から見る関連性

山東京伝の読本を中心に読み解く歴史人物像

谷崎潤一郎「秘密」

藤原定家の研究

太宰作品における戦後

同訓異字「咎」「科」についての研究

Amazon商品におけるレビュー分析の研究

西加奈子『きりこについて』論

芥川龍之介「地獄変」論

和泉地方における方言の使用と意識に関する研究

若年層における関西の方言意識の研究

福井方言における特殊音調の研究

『万葉集』の色彩表現について

『大和物語』と『後撰和歌集』

大江健三郎「死者の奢り」論

『新古今和歌集』の研究

松浦佐用姫伝説と能<松浦>について

川端康成「有難う」論

北海道方言の世代差・男女差に関する研究

国木田独歩『忘れえぬ人々』論

武田泰淳「審判」論

軍隊語にみる役割語成立の研究

広島方言に関する方言意識についての研究

江戸川乱歩『人でなしの恋』

横光利一「蠅」論

歌枕「葛城」考

万葉集における雲の表現について

長野県大町市における地域言語の研究

『冥途の飛脚』論

マンガに表れる関西弁

長谷敏司「地には豊穰」（「My humanity」）

田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」論

村田沙耶香『地球星人』論

明治期外来語に関する研究

演歌の語彙における時代別変遷の研究

「茶」から見る漢字音の研究

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論

洒落本作品における岡場所観

『とはずがたり』考

『三人吉三廓初買』の人物造型

中国国内における日本製品の名称変化に関する研究

オタクという語の研究

能<巴>についての考察

源氏物語の垣間見

『万葉集』における七夕歌について

オノマトペと食との関わりに関する研究

湊かなえ『告白』

中将姫説話研究

現代における連濁の研究

歌枕「三輪」考

春日野の地獄

歌枕「和歌の浦」考

歌枕「初瀬」考

『容疑者Xの献身』論

『百人一首』考

変わる<抄>、秘された<伝>

『花暦八笑人』と膝栗毛物からみる笑いの表現方法

混種語の研究

流行語・新語・方言に関する研究

大学生の敬語意識の研究

海幸彦山幸彦神話における比較神話論的研究

垂井式アクセントの変化に関する研究

配慮を伴う前置き表現の研究

徳富蘆花『不如帰』論

芥川における情報の伝達

LINEにおける配慮表現の研究

三島由紀夫「憂国」論

異体字の研究

「大丈夫」「結構」の意味・用法の変化に関する研究

程度副詞「とても・非常に」の地理的変異研究

「泉川」と周辺歌枕の表現技法と物語的意味

歌枕「天香具山」考

『万葉集』における<空間>考

国語辞典にみえる同音異義語と多義語について

川端康成「山の音」論

菅原道真と菊

歌枕「生駒」考

森見登美彦『四畳半神話大系』論

『流浪の月』論

故事成語の変容の研究

村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』論

伊勢物語における万葉集について

怪異譚としての『高野聖』

倭建命論

キリシタン文献における翻訳の問題

関西方言における行為指示表現の研究

2022年度

宇佐見りん「推し、燃ゆ」論

新方言の東西対立に関する研究

映画「ポケットモンスター」シリーズに関するレビュー分析

村田沙耶香「殺人出産」論

井上靖「しろばんば」論

陰陽師の研究

万葉集における「雨」考

児童文学作品における言語表現の研究

都賀庭鐘の読本三作における知識性

方言変化に関する研究

谷崎潤一郎「秘密」論

同訓異字についての研究

建御雷神考

〈めをと〉という形

「百物語」系怪談集における怪異現象の諸相

西行の花の和歌に関する研究

木花之佐久夜毘売論

広津柳浪「黒蜥蜴」論

歌枕「住吉」の研究

太宰治「ヴィヨンの妻」論

関西若年層における依頼表現について

いわゆる「誤用」の発生要因について

和歌山県有田市域におけるラ行・ザ行・ダ行の混同状況についての研究

『神明恵和合取組』論

稻荷信仰と玉藻前

子どもの成長に伴う言語発達に関する研究

歌枕「三笠山」考

原田マハ『さいはての彼女』論

『源氏物語』人物論

『源氏物語』の「もののけ」

方言語彙にみられる東西対立の研究

丹生都比売大神について

『義経記』を題材とした古典芸能についての考察

日本語の二人称について

褒め言葉の新用法

兵庫県宍粟市方言の動態に関する研究

「ヲトコ」と「ヲノコ」の歴史

『西鶴諸国はなし』挿絵考

『江戸生艶気樺焼』と歌舞伎・浄瑠璃

『昔話稲妻表紙』における蛇体化について

『箱入娘面屋人魚』論

もののけ姫論

「アイヌ神話」論

安部公房『砂の女』論

『金々先生栄花夢』の典拠についての研究

古代における怪異と呪術

ギャル語の研究

『日本永代蔵』成立論

九尾の狐譚の受容に関する一考察

湊かなえ『告白』論

小島信夫「アメリカン・スクール」論

安部公房『他人の顔』論

怒りの感情表現「頭に来る」の浸透について

川柳からみた世相語の変遷についての研究

関西方言における否定表現の研究

『男色大鑑』考

三代集における屏風歌論

宮沢賢治「よだかの星」論

吉本ばなな「キッチン」論

「大人気ない」をめぐる研究

江戸川乱歩「押絵と旅する男」論

奈良の若年層における方言の使用と意識に関する研究

太宰治『お伽草紙』論

同訓異字について

バイト敬語に関する社会言語学的研究

ゲーム『大富豪』による言葉やルールの地域差の研究

堀辰雄「風立ちぬ」論

キリシタン写本における仮名遣いについて

狂言〈釣狐〉考

二重語の使い分けの研究

首都圏における新方言の台頭に関する研究

大岡昇平『野火』論

志賀直哉『和解』論

安部公房『箱男』論

『源氏物語』頭中将論

万葉集の恋歌論

室町時代におけるバ行・マ行の音便について

泉鏡花「眉かくしの霊」論

奈良県香芝市方言における待遇表現の研究

芥川龍之介「トロッコ」論

ライトノベル作品のレビュー比較分析

室町時代における「2人の人」を表す語について

筒井康隆「虚人たち」論

有川浩「図書館戦争」から見る読書の自由について

『砂の女』論

同訓異字の使い分けに関する研究

菟原処女伝説の確立と展開

2021年度

春水人情本における此糸の人物像

谷崎潤一郎『痴人の愛』論

16～17世紀対訳辞書の研究

バレット写本から見るポルトガル式ローマ字の異体字表記について

森鷗外『雁』論

絵本におけるオノマトペの研究

『春色梅児誉美』におけるお由像

『源氏物語』における子どもの描写

桑田佳祐の歌詞における特性・語彙の傾向

菊池寛「忠直卿行伏記」論

中世末期日本語を中心とした連濁の研究

校訂石見神楽台本の語彙研究

坂口安吾「夜長姫と耳男」論

『雨月物語』「菊花の約」論

桜庭一樹『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』における少女と大人

国木田独歩「忘れえぬ人々」論

食感についてのオノマトペの研究

坂口安吾「白痴」論

大阪若年層における文末表現の研究

役割語の持つ機能についての研究

『枕草子』の色彩表現について

夏目漱石『三四郎』論

『髑髏城の七人』論

堀辰雄「燃ゆる頬」における「私」の〈愛〉

万葉集における「世間」考

森鷗外「高瀬舟」論

近松門左衛門『心中天網島』における「義理」

泉鏡花『黒猫』に描かれる怪異と愛憎

平安～室町時代における鬼神の研究

凧良ゆう『流浪の月』論

コリヤード『懺悔録』のことば

坂口安吾「青鬼の禪を洗う女」論

天草版伊曾保物語における役割語

万葉集における「袖振り」論

当て字について

村田沙耶香『コンビニ人間』論

梶井基次郎「Kの昇天 - 域はKの溺死」における二重身

小川未明「赤い蠟燭と人魚」論

『源氏物語』葵巻の追悼表現

同訓異字の歴史的研究

『徒然草』の無常観について

徳島市域における方言の世代変化に関する研究

大阪方言における感情表現の音響分析

『竹取物語』における帝の人物像

坂口安吾「夜長姫と耳男」論

池井戸潤「下町ロケット」論

恋愛ソングに対するレビュー分析

二人称の通時的研究

宇治拾遺物語研究

夏目漱石『門』論

『とはずがたり』研究

川端康成「五拾銭銀貨」を〈転換期〉で読む

芥川龍之介「六の宮の姫君」論

三島由紀夫『沈める滝』論

芥川龍之介「地獄変」論

江戸川乱歩「鏡地獄」論 発狂と地獄

山東京伝と曲亭馬琴の作品における世話浄瑠璃の利用方法

川端康成「日本人アンナ」論